

課題番号	研究課題名	研究代表者	評価結果
16108002	気候変化と人間活動に応答する海洋生態系の歴史的変遷と将来予測	岸 道郎（北海道大学・大学院水産科学研究院・教授）	B
<p>本研究は、各種生態系モデルを統合することにより、将来の海洋生態系の変動を予測し、水産資源の最適な利用方策を策定するための新規モデルを構築するという、壮大かつ重要な目標を掲げた研究である。そのために、海況や気象変動が、日本近海の主要な水産資源を含む海洋生態系に与える影響を解析し、プランクトン・スルメイカ・イワシ類・サケ・ウナギ・マグロ類・海鳥などに関する個別の重要な研究成果を上げた。これらは 100 報以上の論文として質の高い国際誌に多数公表されていることから、研究の水準は高く、個々の分野への波及効果は大きいものと判断される。</p> <p>しかしながら、最大の目的であった「海洋生態系の多様性保全と生物資源の最適な資源利用方策」が策定されていない。これは、当初の目標設定が過大であったためと判断される。また、研究課題名にある「人間活動」「歴史的変遷」「将来予測」に相応しい成果があまり得られていないのが残念である。さらに、複数モデルの統合ができなかった原因の一つには、すでに「中間評価結果」でも指摘されているように、10 名を超える研究者間の連携が十分でなかったことによる可能性が高い。</p> <p>本研究では、海洋生態系の保全に極めて有効なデータセットの構築とモデルの開発が行われている。地球規模の気候及び海況の変動（レジームシフト）と、マイワシやサンマなどの主要な水産資源魚種のダイナミックな入れ替わりの関係には、未だ不明の点が多いので、本研究の今後のさらなる発展を期待したい。</p>			